



愛郷無限

土屋館
どや
だて 通信

発行者：大曲・花火通り商店街
文責：辻

お問い合わせ：080-1265-7035
tuck-t@akita-tsujiya.jp

2013年11月26日号 NO.431

写真提供：大仙市

Subject：東京有楽町大仙ふるさとフェアに大曲納豆汁参加

11月23日、当地ではカモースリング大曲が大盛況でありましたが、同時間同時刻には東京・有楽町の駅前広場に於いて、市としては初めての単独開催となる「大仙市ふるさとフェア」が大仙市・大仙市観光物産協会の主催で開催されました。食や伝統芸能、郷土産品、そして人を通じて当地の素晴らしさを首都圏の皆さんにPRし、知名度アップと来訪促進、商業促進をするためのイベントです。

大仙市もこれまでは秋田県や、県南地域で連携するPRイベントに参加していましたが、今回は単独で開催するものであり、これは本年春に旧町村の観光物産協会がようやく合併して一本化できたことに帰するところ大。今後の更なる活動活発化に期待しています。

私たち「大曲の納豆汁」旨めもの研究会は、大仙市より依頼を受け、大曲納豆汁と特製きりたんぽを現地調理して、来場者にご提供する任務を仰せつかり、会として協力をさせていただきました。

同日の大曲でのイベントが大規模になったため、有楽町には少数精鋭の2名しか派遣することができませんでしたが、百戦錬磨・一騎当千のメンバーを送ったため、一日で2種類合わせて何と千食以上を販売致しました。

流石に二人だけでは無理な数字であるので、現場では、大仙市の職員、大曲昭和40年会東京支部の同級生皆さん、首都圏大曲会の皆さんにも精力的にお手伝いいただいたそうので、お陰様で無事に努めを果たすことができました。

都内在住ふるさと会の沢山の皆さんから応援してもらえる、本当にありがたいことであり、心強いことです。

大曲納豆汁もきりたんぽ鍋も行列ができるほどの大盛況ぶりで、11時からスタートしたイベントですが15時には完売してしまったそうです。

やはり東京。人の数と口の数が圧倒的に違います。

初回だったので大々的に費用をかけたイベントになったと思いますが、決して単発事業に終わらせることなく、今後は規模と費用を抑えたものであっても、ぜひ定期的に開催してもらいたいものです。我々の大曲納豆汁や花火通り商店街の活動もそうですが、智恵を絞り、汗を流し、頭下げて借り物で済ませれば費用は思いの外圧縮できると思います。そしてもっと内部連携の和を広げて、真に魅力あるラインナップを揃えて欲しい。現在進めている大仙市おもてなしマイスターの皆さんに活躍してもらおう場にもなります。

(この分野ではかたに先行する隣市・横手市/仙北市から刺激を受けてどんどん学び、実績を積み上げていって欲しいですね。旨め研もはつでも応援させていただきます)